

Title	米国政界の変動
Sub Title	
Author	板倉, 卓造
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.4, No.6 (1910. 12) ,p.657(53)- 682(78)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19101200-0053

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

52 政府の體面信義に掛けて爲す能はざる所にして其結果は自縛自縛一切の事業計畫を悉く放棄して僅かに郵便貯金の増加額なる一條の逃途に遁走して一時を糊塗するあるのみ亦憫むに耐へざるにあらずや。

之を要するに現政府は決して消極的財政策に甘んずる人々に依りて組織せられたるものにあらず人一倍仕事を爲し以て兎も角も世間の喝采を博せんことを希ふの傾なり此政府が最初より非募債主義云々を標榜したるは確かに世間を欺き兼て自己を欺くものにして其結果は徒らに功名心に驅られたる無謀の借換計畫となり更らに今日の窮境に陥るに至りしものなれば世間或は政府の非募債主義を放棄したる其豹變を咎むるもの少なからずと雖も吾人は寧ろ現政府としては其常道に復したるものと認めざるを得ざるなり。

米國政界の變動

板倉卓造

58 毎年十一月第一月曜日(次々火曜日)は米國にて各種の選舉の行はるゝ當日にして、此日を Election day と稱すること人の能く知る所なり。而して本年の當日即ち去る十一月八日は、十二州を除く全國各州の知事此十二州中、ルイジヤナは本年五月、アトカンサス、メーン及びヴァモントは九月、ジョージヤは十月を以て知事の選舉を行ひたるが故に、本年は僅に七州を除く外全國に亙りて改選したるものなり。聯邦議會上院の三分の一及び下院の總選舉を行ふものなるより本年のエレクシヨン、デーは、去る一九〇八年の大統領選舉に劣らざる程に内外の人心を衝動せしめたり。否な大統領選舉の當時は、固より非常の黨争を生じたりしも、デモクラット黨は到底レパブリカン黨の敵に非ず、タフト氏の當選す可きこと何人も最初より豫期したる所なるを以て、其選舉の結果を見て、敢て驚くものなかりしに反し、

54 本年の選舉は、曩にタフト氏の就任以來レパブリカン黨の聲望著しく墜落し、加ふるは黨内及び政府部内に内訌を醸したるに乗じ、デモクラット黨が久しく衰へたる勇氣を鼓舞して活躍を開始するの機會を捕へ、今春以來米國の政界は一時に活氣を呈したる際なりしより、其結果如何は曾に米國內のみならず世界の注意を喚起したる所にして、其人心を衝動すること大統領選舉よりも實際に甚だじかりしが如し。其結果は遂に到る處デモクラット黨の大勝に歸し、從來下院に於ても上院に於てもレパブリカン黨が常に多數を制し、現に下院にてはレパブリカン黨二百二十五名に對しデモクラット黨は百六十九名にして、上院にては五十九名に對して三十二名の差なりしに、今度忽ち形勢一變して、下院に於ては、デモクラット黨二百二十三名、レパブリカン黨百七十二名と爲り、前者は一舉五十四名を贏ち得たるに反し、後者は、俄然五十三名を失ひて、多年來獨占したりし多數黨の地位は、一朝にしてレパブリカン黨よりデモクラット黨に轉換するに至れり。上院に於ては、流石に下院の如き急變を生ずることなかりしも、尙ほ兩黨勢力の差二十七名なりしを一舉にて約十名の差にまで減少したるのみならず、之までレパブリカン黨の

根據地と目されたる東部諸州に於ける知事の選舉に、デモクラット黨が殆ど悉く成功したる中にも、ルーズヴェルト氏の郷里にして同氏が最も奔走盡力したる紐育州と同じくタフト氏の郷里にして今度の選舉に最も疑問とせられたるオハイオ州の二州は、其勝敗如何に依てレパブリカン黨の鼎の輕重を定めらるゝ試験場と見做されたる其二州に於て當選したる州知事が、孰れもデモクラット黨屈指の人物にして、殊に再選せられたるオハイオ州の知事ハルモン氏の如きは、其人格才能と共に米國政治家中第一流の人物として推稱せられ、州政治の熱心なる改革家としてレパブリカン黨の紐育州現知事ヒュース氏と併稱せられて、デモクラット黨のヒュースなる名を得たるほどにして、曩に黨中第一の人物と稱せられたるミネソタ州の前知事故ジョンソン氏の逝くや、黨の衆望は一にハルモン氏に歸し、次期の大統領の選舉には、デモクラット黨の候補者として、元勳ブライヤン氏を壓倒するに足るの輿望を荷ふの人なりと云ふ、以てデモクラット黨の勝利の非常なるを想像す可し。デモクラット黨が米國の政界に其勢力を失ひしは、多年來のことにして、就中一千八百九十六年同黨の大統領故クリヴァンド氏が退隱して、レパ

56
ブリカン黨の故マツキンレー氏が其後を襲うて以來今日まで十餘年間世はレバ
ブリカン黨の天下にして、大統領は固より聯邦議會の上下兩院議員、各州知事、各州
議會の上下兩院議員の選舉に至るまでレバブリカン黨に非ざれば人に非ざるの
有様なりしに今度一朝にしてデモクラット黨が一舉レバブリカン黨を打破し昔
日の勢力を挽回したるの事實は米國の政界に近來稀有の大變化にして、レバブリ
カン黨たる大統領タフト氏の治下にデモクラット黨の下院を有するに至りたる
政變は、曾て一千八百九十五年より七年に至る第五十四議會に於て、故クリーヴラ
ンド氏がレバブリカン黨の下院を有したると同様の形勢にして、今後タフト内閣
が其政策を行ふに當り非常の艱難に遭遇することある可し。之より果して如何
なる變動を生ずるや、何人も多大の興味を以て眺めんとする所なる可しとして、レ
バブリカン黨が一朝にして斯る大敗北を招きたるに就ては、固より種々の原因あ
る可しと雖も、余は(一)ベーン新關稅法の不評判なること、(二)レバブリカン黨の分離
及びタフト内閣の内訌、(三)レバブリカン黨に對する人心の倦怠、及び(四)ルーズヴェ
ルト氏に對する人心の反動の四を其最も重なるものとして數へんと欲するもの
なり。

二

一千九百八年聯邦議會下院の總選舉を行ふや、レバブリカン黨及びデモクラッ
ト黨ともにディングレー關稅法を改正して輸入稅率を輕減せんことを聲言し、レ
バブリカン黨の遂に勝利を得るや、昨年の議會に新關稅法案を提出して、八月五日
これを通過し、翌日より直に實施したる所謂ベーン關稅法なるものは、果して總選
舉の當時に於ける聲音の如く、稅率を輕減したりしやと云ふに、課稅物品四百八十
一類及び無稅物品二百三十七類に就て、從來の稅率に比し、或物は高められ、或物は
減せられ、若しくは其儘なるあり、或は無稅品なりしものが課稅品に編入せられた
るものあり、或は高率の課稅品たりしものが殆ど無稅品に等しきまでに輕減せら
れたる例もあり、新關稅法が舊關稅法に比して、果して如何なる程度の輕減を爲
したりや、遽に斷定す可からずと雖も、其米國關稅法の根本趣意たるマツキンレー
關稅法以來の精神、即ち内地産業の發達を保護獎勵するに在るの一事は、昔も今も
變ずる所なきを以て、製鐵、製鋼業の如き多年來保護獎勵せられたる産業にして、今

68 日既に充分の發達を遂げたるものは最早や高率なる關稅手段を以て、之を保護するの必要なきが故に、新關稅法の物品中、鑛棒鐵その他製鐵製鋼業に關する品目は、著しく輕減せられたるの例はあれども、概して之を評せば、關稅法の根本趣意にして改められざる限り、依然として稅率に變化なきは勿論なるを以て、新定のペーロン關稅法も從來行はれたるデイングレー關稅法と、殆ど大差なきものなること争ふ可からず。蓋しレパブリカン黨が其總選舉を争ふに當て稅率の輕減を標榜したりし所以のものは、曾て自黨の制定したる高率なりしデイングレー關稅法が既にして無用有害なるを認められ、之に對し國內漸く非難の聲あるに驚き、其非難に應せんが爲めに、國民に輕減を公約したるものあるに、其一旦選舉に勝を制し、再び議會に多數を占むるに及び、國民に對する公約に隨ひ、ダフト政府の提出したる新關稅法が、實際に公約を重んじて稅率の輕減せられたるを認むるに足るほどの大改正に非ざりし事實は、即ちレパブリカン黨が天下に其信用を失墜するに至りたる一原因にして、レパブリカン黨が其公約に違ひて、大改正を行ふこと能はざりし理由に就き、種々の説ある其中にて、同黨に取て最も不利益なる一説は、レパブリカン

黨がツラストの爲めに動かされたりと云ふに在り。元來前大統領ルーズヴェルト氏と云ひ、又現在のタフト氏と云ひ孰れもツラストの專横を惡むこと甚だしく、所謂非ツラスト法を勵行して、銳意その征伐の目的を達せんことは努めたる事實は、人の能く知る所なるに拘はらず、其いよく關稅改正を行ふに當り、久しく高率なる保護關稅の恩惠に浴したる當業者、就中ツラストの輩が減稅反對の運動を試みたるに對し、之れを如何ともする能はず、其運動に動かされて遂に公約を全ふすること能はざりし一事は、レパブリカン黨の面目を損したること尠少ならず。抑々米國內の諸物價が他國に比して著しく高貴なるは内外に隠れなき事實にして、其因て來る所を糺せば、外國品に對し高率の關稅を課して其輸入を阻碍し、ツラストをして國內に暴横を逞うし、勝手に物價を騰貴せしめたるの一事最も有力なる原因の一なるが故に、ツラストの暴横を取締るには非ツラスト法の厲行など云ふ緩漫なる手段に依らず、關稅の率を低減して、外國品の輸入を容易にし、ツラストとの競争を行はしむるを以て最上策と爲す可しとの説は、以前より識者の間に唱へられたる所にして、レパブリカン黨も同意なりしに、いよく其關稅改正を行ふに

60 際しては、苟も一度保護關稅を行ひたる以上、後に至て之を改廢せんとするも、既に久しく恩惠に慣れたる當業者は、永久に其美味を忘るゝ能はず、有らゆる手段運動を盡くして、減稅に反對し、遂に其目的を達せざれば止まざるの勢を爲すは、何國の例にも認めらるゝ所なる其例に漏れず、レパブリカン黨が果してツラストの爲めに軟化せられたるは、前大統領以來ツラスト征伐の手前及び前回總選舉に於ける一黨の公約に對し、レパブリカン黨の此輕薄なる態度は、國民に向て殆ど申譯もなき次第なりしなり。斯る處に偶然にも昨冬以來、國內の諸物價次第に騰貴し、細民の生活費一時に昂騰したるの事實は、偕てこそ新關稅法の結果即ち斯の如しとして、反對黨及び自黨内の不平派に有力なる攻撃の好材料を與へ、一層激烈にタフト氏政策の失敗、レパブリカン黨不信の罪を鳴らしたる其結果の先づ第一に現はれたるは、去る三月行はれたる米國屈指の工業地マサチユセツ州ローウエルに於ける下院議員の補缺選舉に、レパブリカン黨の候補者がデモクラツト黨候補者の爲めに大敗したること是れなり。元來ローウエルは多年間最も忠實なるレパブリカン黨の根據地の一と目されたる選舉區なるに、一朝にして反對の爲めに敗北したる其原因は、新關稅法に基因する生活費の暴騰に對する不滿に在りと云ふ。ローウエルの大敗は著しく全國の耳目を聳動せしめたる其處に、引續き四月に至り紐育州第三十二區にて聯邦議會の補缺選舉を行ひたるに、是亦デモクラツト黨の勝利に歸したる新事實を生じたり。同區も亦ローウエルと同様レパブリカン黨の根據地にして、二十年來同黨の勢力最も盛んなりし地として、現に前回選舉の當時にも大多數を以てデモクラツト黨を破りたるほどなるに、今や其地位を顛倒するに至りたる主たる原因も亦新關稅に對する非難に外ならずと云ふ。斯の如くペイン關稅法の不評判なる爲め、レパブリカン黨は各所の補缺選舉に打破せられ、前途の大變動を想像せしめつゝありし又其處に、去る九月に行はれたるメイン州の知事その他の選舉にも又々大敗したるより、多年來流石に優勢なりしレパブリカン黨の聲價は俄然急轉直下の勢を以て墜落し、遂に今度の總選舉に彼の如き敗北を招くに至りしものなり。ペイン新關稅法案の下院委員長たりしペイン氏が從來引續き選出せられたる紐育州に於て遂に落選したるが如き、自ら此事實を證明するものと云ふ可し。

襲にレパブリカン黨内に謀叛派 (Insurgents) なるものを生じ、其入數未だ多からずと雖も、自黨の政策及び首領に對し、屢々非難攻撃を加へ、或時は宿年の仇敵たるデモクラット黨と款を通じて、自黨を窮地に陥るゝことあり。斯る危険なる謀叛派を生ずるに至りし原因は、固より一ならざる可しと雖も、第一には自黨の首領連が事を行ふに漫に專斷にして、黨員を輕蔑すること甚だしく、或は依估偏頗の沙汰さへ頻々たるを慨し、日頃不平の徒相集まりて所謂謀叛を企てたるものにして、一黨の主義政綱に對し堂々たる反對意見を懷抱するの結果には非ずして、云はゞ黨内の首領連に對する私の不満が發して遂に同類相寄り相集まるに至りたる事情もある可し。第二には一概に謀叛派と稱して恰も私の不滿家が結合したるが如く聞ゆるも、其中には實際に自黨の政策に慷慨たるものありて、例へば前記ペーン新關稅法に對し、其高率なる保護關稅なるを指摘して、タフト政府及び自黨の態度に反對するものあり。其動機は或は互に同じからざれども、自黨に對して不平に堪へざるの一事は敢て異なることなきより、同氣相求めて投合し、殊に下院に於て

は其元氣甚だ旺盛にして密にデモクラット黨と示合はし、自黨の首領及び自黨の政府を苦めたること今春以來既に二回に及べり。下院議長キャノン氏の權力失墜に次ぐに、上院の最勢力家オールドリッチ及びペール兩氏の退隱の止むを得ざるに至りしこと及びタフト氏が最も重きを置きたる州際鐵道法案が、下院に於て所謂骨抜きと爲されたること是れなり。

抑々米國下院に於ける議長の職たる、大統領に次で政治上の權柄を掌握する極めて勢力ある地位にして、其勢力は議長を選擧したる黨派、否な下院に於ける兩黨の勢力を合したるものよりも強大なりと稱せらるゝ程にして、今その勢力の因て生ずる所を尋ぬるに、米國下院の議長は他國に見ることを得ざる種々の權能を有し、思ふまゝに議會を支配することを得るに因るものにして、試に之を列擧せんに、第一、議長は委員の指命權を有すること。米國の議會にては、財政、外交、海陸軍事その他種々の目的を有する多數の常任委員會を設け、一切の議案は其目的に應じて、一旦委員會の審議に附せられたる後に非ざれば、如何なる議案も議會に提出することを許さざるの定めなるを以て、何程の大問題も、其の附託せらるゝ委員の如

64 何に依ては問題の運命も圖られざる結果選ばれて委員に命せらるゝものゝ勢力も亦加はるの理なるが故に、議員は熱心に其委員に指命せられんことを希望し、往々にして激烈なる競争を生ずることあり。而して其委員の指命權は一に議長の掌中に存し、議長は一存を以て專斷し得るを以て、其勢力は求めずして自ら強大と爲らざるを得ざる可し。

第二、議長は發言を議員に許可するの權能を有すること。議長の許可なくしては、如何なる動議も提出するを得ず、如何なる議案も報告するを得ず、又如何なる演説も之を試みることを得ざるは、固より他國の議會にても略ぼ同様なれども、米國の議會にては議長が某議員を好まざるが爲めに、或は其人を知らざるが爲めに、時に全開期中、甚だしきは全任期中、一言をも發するの機會を與へざりし例に乏しからず。

第三、議長は院内に於ける一切の議事を裁斷するの權能を有すること。議案を取捨し、議事日程を定むるの權能は、何國の議會にても議長の手中に在るの例なれども、米國の議長は其權能を行ふこと甚だ峻嚴にして、往々專横に過ぐることあり。

此故に自黨の議員中に或は動議を提出せんとするものあるも、若し其動議にして豫め黨の首領に謀りたる後に非ざれば、其提出を許可せざるのみか、如何なる議案と雖も、議長自ら満足するに非ざれば、之を採決に附せざるが故に、議長は實際に議案に對する許否權^{ソート・パワ}を有するものなるを以て、苟も院外者にして一の法律の制定を希望せんか、之を提出する議員の贊成を得るは勿論、同時に議長その人の贊成を請ひ其同意を得るに非ざれば、到底目的を達する能はざること、今日米國議會の定例なりとす。而して議長が此職權を行ふに二箇の機關あり。假に譯して議事規則委員(Committee on Rules)及び指揮委員(Steering Committee)と稱するもの是れなり。前者は議長を委員長として、院内多數黨の首領二名及び少數黨の首領二名より成り、議案を取捨し、議事の日程順序を定むるものにして、議事に關する一切の專斷權を有するを以て、或は發言中の議員を差止め、勝手に他の議案の報告を爲さしめ、其討議を進行せしむることあり、左れば如何に重要な議案と雖も、右委員の意に反するに於ては到底握潰しの厄を免かる可からず、而して其委員は前記の如く多數、少數兩黨より選出せらるゝと雖も、全委員の總會は單に普通平凡の事件を定むる場

66 合のみにして、重要な事件を決定するは常に議長と多数黨の委員に限らるゝものなり。後者即ち指揮委員と稱するは、前者の如く議院に於ける公の機關に非ずして、院内多数黨の私の機關なれども、事實上には議案の運命を定むるものなりと云ふは、此委員は議事規則委員と同じく、議長及び外二名より成り、通常議事規則委員が之を兼ねるの例にして、其委員の專斷に於て、議案を通過せしむ可きものと否決せしむ可きものとを決定するの權能を有するを以て、其率ゆる多数黨の勢力を利用して、如何なる議案も唯だ是等三名の意向如何に依て、其運命を決せらるゝの實際なり。

斯の如く米國下院に於ける議長の權力は、殆ど廣大無邊にして、恰も專制君主の如くなるを以て、議長その人の人物如何に依ては、其職權を濫用し、議會を意の儘に左右することを得るものなり。今の下院議長キャノン氏が、去る一千九百三年以來、第五十八、五十九、六十、及び六十一議會を通じ、七年間議長の椅子を專占し、レバリアカン黨領袖の一人として、閱歴聲望ともに黨中に重きを爲すの人物なりと云へば、此人物にして斯る權力ある椅子を占むる以上は、自ら勢力の強大を致す可きと

勿論にして、隨て先年來同氏の議長振りに就て非難を加ふるものを生じ、往々その專横不遜なるを攻撃するものあるに至りたるは、隠れもなき事實にして、世間に Cannonism なる評語を生ずるに至れるを見て、キャノン氏の專横不遜なるに不満を懷くもの多し。其不平不満の破裂して、先づ黨内分裂の機を急にしたるものを去る三月に於けるキャノン氏排斥の動議なりとす。此の動議の要旨は從來議長の一權力たりし前記議事規則委員の椅子より議長を蹴落さんとすものにして、謀叛派の徒とデモクラット黨と相通じ、百五十五に對する百九十一の多數を以て之を可決し、更に勢に乗じてキャノン氏を議長の職より排斥せんとしたり。此最後の動議は否決せられたりと雖も、議事規則委員の指命權を剝奪せられたるの一事は、米國の歴史に稀有なる出來事にして、之に依て議長の職權を著しく制限したるは、實際に非常なる打撃と云はざる可からず。續て議長の自動車費をも否決するに至りたるは、能く／＼キャノン氏の不入望なるを示すものにして、又以て謀叛派が如何

に黨内領袖の專横を怒れるかを想像す可し。領袖の排斥は前に此に止まらず、其勢、上院にまで及び、上院に於て下院のキャノン氏と同様の勢力を振ひ、三十年來、上院に議席を有し、レパブリカン黨中領袖の一人たるロイド、アイランド州のオールドリッチ氏が同じ領袖の一人なるメイン州のヘール氏と共に、明年その任期の盡くるを機とし、政界より退隱するの意を發表するの止むを得ざるに至りし出來事も、亦黨内に於ける不評判に原因するものにして、謀叛派の勝利と稱せらる。之より次第に黨内分裂の徴歴然として、謀叛派は事の乘ず可き機ある毎にデモクラット黨と款を通じて自黨の政府に反抗し、遂に五月に至りタフト氏が最も重きを置きたる州際鐵道法案に對し激烈なる攻撃を加へ、其法案中最重要の二箇條を否決したるも亦デモクラット黨と内通したる謀叛に外ならず。タフト氏は此謀叛派の行動に憤慨し、此際黨内協同一致して從來の勢力を維持せざる可からざるを切言し、大に盡力したる結果、結局右法案はタフト氏の希望通り成立するを得たれども、此一事を以て見るも黨内不和のいよく甚だしきを想像するに難からず。謀叛派の勢力の侮る可からざるは例へば今度の選舉に先ちて行はれたるカンサス州

に於けるレパブリカン黨の州知事及び國會議員の豫選に、謀叛派が壓倒的大勝利を博し、其際議決せられたる政綱は、一般にタフト氏の施政を攻撃し、ペイン關稅法の廢止を期す可しと宣言したるが如き、續てアイオア州の同黨大會に於ても、大多數を以て新關稅法排斥の決議を爲し、謀叛派は其決議中、公々然とタフト氏を誹謗したるが如き事實に徴するも之を推知するを得べし。其將來果して如何なる變化を生ずるや豫測す可からずと雖も、兎に角今度の大切なる選舉に、レパブリカン黨が一黨の統一を缺き、時に同志打の不始末を演じ、以てデモクラット黨をして、乘ず可き好機會を與へたるは、其敗因の一と認めざるを得ざるなり。

レパブリカン一黨内の不統一なること既に斯の如くなる其上に、近來タフト政府の内部にも厭はしき内訌沙汰ありて、爲めにレパブリカン黨政府の威信を損じたること少なからずと云ふは、之より先きルーズヴェルト氏が其治世の最後に計畫したる天然富源保存委員會なるものあり。米國の土地、山林、鑛山、水利等の天然富源が漸次利己一偏の貪欲者流の爲めに濫掘濫伐せられ、或は荒廢に歸するに至らんことを憂慮し、之を防止せんが爲めに保存委員會なるものを創立し、各州知事

70 を初め在野の諸名士を網羅して、上下の力に依て其目的を達せんとしたるものにして、實にルーズヴェルト氏が最も力を盡したる遺策の一と稱せらるゝものなり。斯くてタフト氏の内閣と爲り、今のハリンジャー氏その内務卿たるや、忽ち右の保存政策の事に關し部下たる山林局長ピンチョット氏と意見の衝突を來たし、其結果ピンチョット氏は官紀を紊亂したりとの故を以て、タフト氏の爲めに免職せられ、同時にハリンジャー氏は其職權を利用し富源保存の事に關して私利を營みたりとの厭はしき風説を流布するものありて、事遂に公の沙汰と爲り議會にては之が審査の目的を以て特に委員會を設け、久しきに亙て事實の審査を遂げたる處、結局事實相違のと明白と爲るに及で、内務卿の地位も一先づ安固に復したりしも、一時はハリンジャー對ピンチョット事件と稱して、世間の耳目を聳動せしめたるほどの騒ぎを生じたりし其一方の相手方たる山林局長ピンチョット氏と云ふは實はルーズヴェルト氏が無二の寵兒フレイオリットにして、右の天然富源保存の事も同氏がルーズヴェルト氏に獻策懇懇しある所に係るを以て之を執行委員の筆頭に置き、尙ほ前大統領が其職を去るに臨み、同氏を遺して専ら之に當らしめ、以てタフト氏の下に

事業の進行を期したるに、遂にハリンジャー氏と相容れずして現大統領の爲めに放逐せられたるは、ルーズヴェルト氏に於て甚だ不快に感じたることなる可く、ピンチョット氏は當時ルーズヴェルト氏が阿非利加の旅行より歸るを伊太利まで出迎へて事情を訴へんとて、紐育より出發したりと傳へられたるほどなりしより、内務卿に對する世上の評判は兎角宜しからず、屢々辭職説さへ傳ふるものあり。甚だしきは此事ありて以來タフト氏とルーズヴェルト氏の間柄亦舊日の如く爲らず、阿非利加より歸來の態度は、謀叛派の一味と接近し、其邸宅に出入するもの、中、下院に於ける謀叛派の急先鋒にして又ピンチョット氏と最も親交あるポインデキスター、上院に於ける同派の首領インディヤナ州選出のピヴェリツジの諸氏を見るのみならず、ピンチョット氏はルーズヴェルト氏の命を奉じて七月上旬カリフォルニア州に向ひ、同州に於ける今度の選舉に謀叛派を助けて所謂正統派(Regulars)を破らんとて盛んなる運動に著手したる等、當時ルーズヴェルト氏と謀叛派との關係に就いて種々の風説を生じ一方に、レバブリカン黨分離の兆ある其上に、タフト内閣の内部に斯る不統一、無規律の内情を曝露したるは、政府の信用と

威嚴とを失墜すること甚だしく漸く國民の信認を害するに乗じて、デモクラット
 黨が此機會を利用したるの事實も、亦今度の選舉にレパブリカン黨が大敗したる
 一原因たるに相違なかる可し。

四

一千八百五十九年今日のレパブリカン黨が成立したる以來上下兩院に於ての
 兩黨の勢力消長を見るに、上院に於ては其後二十六回の議會中デモクラット黨の
 優勢なりしは單に五回のみにして、他は悉くレパブリカン黨の爲めに多數を占め
 られ、下院も亦大體に於てレパブリカン黨の天下にして、デモクラット黨の多數を
 制したりしは僅に八回に過ぎず。試に之を左に表記す可し。

議會	年	上院	下院
三六	一八五九	レ黨	レ黨
三七	一八六一	レ黨	レ黨
三八	一八六三	レ黨	レ黨
三九	一八六五	レ黨	レ黨
	一八六七	レ黨	レ黨
	一八六九	レ黨	レ黨
	一八七一	レ黨	レ黨
	一八七三	レ黨	レ黨
	一八七五	レ黨	レ黨
	一八七七	レ黨	レ黨
	一八七九	レ黨	レ黨
	一八八一	レ黨	レ黨
	一八八三	レ黨	レ黨
	一八八五	レ黨	レ黨
	一八八七	レ黨	レ黨
	一八八九	レ黨	レ黨
	一八九一	レ黨	レ黨
	一八九三	レ黨	レ黨
	一八九五	レ黨	レ黨
	一八九七	レ黨	レ黨
	一八九九	レ黨	レ黨
	一九〇一	レ黨	レ黨
	一九〇三	レ黨	レ黨

四〇	一八六七	レ黨	レ黨
四一	一八六九	レ黨	レ黨
四二	一八七一	レ黨	レ黨
四三	一八七三	レ黨	レ黨
四四	一八七五	レ黨	レ黨
四五	一八七七	レ黨	レ黨
四六	一八七九	レ黨	レ黨
四七	一八八一	レ黨	レ黨
四八	一八八三	レ黨	レ黨
四九	一八八五	レ黨	レ黨
五〇	一八八七	レ黨	レ黨
五一	一八八九	レ黨	レ黨
五二	一八九一	レ黨	レ黨
五三	一八九三	レ黨	レ黨
五四	一八九五	レ黨	レ黨
五五	一八九七	レ黨	レ黨
五六	一八九九	レ黨	レ黨
五七	一九〇一	レ黨	レ黨
	一九〇三	レ黨	レ黨

五八	一九〇三—一九〇五	三二	五八	一七四	二〇六
五九	一九〇五—一九〇七	三二	五八	一三六	二五〇
六〇	一九〇七—一九〇九	三一	六一	一六四	二二二
六一	一九〇九—一九一一	三二	六〇	一七二	二一九

以上の表の示す如く、上下兩院ともに一千八百九十五年第五十四議會以來、毎度の選挙は常にレパブリカン黨の勝利に歸し、天下の政權を掌握すること爰に十有五年の久しきに亘り、人心漸くレパブリカン黨に飽き、頻に變化を思ふに至りたる事實は亦デモクラット黨の復興を促したる一原因と認めざるを得ず。何れの國の政界にても、一黨のみ餘りに久しく政權を專占するときには自ら人心に倦怠を生ずるの常にして、若しも其倦怠を生せんとする其處に重大なる不始末を演ずる如きことあらんか、野に在て多年潛勢力を養ひたる敵黨が、此好機に乗じて勃然蹶起するに至るは政界に珍らしからざる現象なるのみならず、一黨のみ久しく政權を壟斷するときは、自ら其間に失策を生じ若しくは内訌を醸すに至ること殆ど免かれざる所なれば、レパブリカン黨が多年の間に自ら人心の歸依を失ひたるも亦止むを得ざる所にして、其漸く人心の歸依を失はんとしたる其處に、ペーン新關稅法の失敗に加ふるに一黨の分離、タフト内閣の内訌等の不始末續發したるの事實は、レパブリカン黨の威望を失墜すると同時に、デモクラット黨の奮起を促したる次第なり。

五

最後にレパブリカン黨の大立物たるルーズヴェルト氏に對する米國人心の反動も、亦同黨の勢力を失墜せしめたる一因ならざるを得ず。レパブリカン黨の勢力が今日まで各州の議會に於ても、聯邦の議會に於ても、若しくは其他の範圍に於ても常に鞏固強大なるを得たるは、黨そのもの、多年來養ひたる基礎の堅實なりしに因るものなりとは云ひながら、近來マツキンレー、ルーズヴェルト諸氏の如き英邁なる大統領が續出して、天下の政權を握りたることも與りて力あるは勿論にして、中にもルーズヴェルト氏の如き精力絶倫なる偉大の政治家が朝に在ること久しく、其間自黨の威信を加へたる幾干なりしや知る可からず。左ればルーズヴェルト氏の聲望は敵の間にも、味方の間にも甚だ高くして、今より其治世の當時を追想すれば、殆どレパブリカン黨の萬歳なるを思はしめたるほどにして、其大統領

第二期の任期満了するや、後事をダフト氏に委ねて、飄然阿非利加に獅子狩の壯圖を試み、其政界に在るや雄飛活躍を極め、其野に下るや蠻地に男兒の快舉を企つるが如き、快男兒ルーズヴェルト氏の眞面目を發揮して、米國の人心を魅し、他國の政治家をして羨望に堪へざらしめ、其阿非利加より歸るや、途中歐洲大國の元首を歴訪し、到る處に豪語を放つて聞くものを驚かしめ、いよ／＼其紐育に歸著するや、恰も凱旋將軍の如く殆ど米國の朝野を擧て之を歡迎したる其歡迎の光景を想像するときは、ルーズヴェルト氏が尙ほ米國の人心を支配するの魔力の毫も衰へざるのみか、ますます／＼盛んなるを信せしめたるの實際なるに、今や人心漸く反動を生せんとするに至りたるはルーズヴェルト氏の胸中、第三期大統領就任の野心あること、誰れ云ふとなく一般に傳へられ、ルーズヴェルト氏亦何故か最初の如く斷然これを否認せざるより、ルーズヴェルト氏はワシントン以來米國共和政治の慣例として三期就任の不當なるを認められたる其古來の慣例を破りて、又々政權を覬覦するは米國共和政治の根本觀念たる權力を久しく一人に集注せざるの本旨に悖るものなりとの非難を加ふるものを生じたる其上に、近來ルーズヴェルト氏は新

國家主義(New Nationalism)なる新主義を唱導し、今日各州の權力が餘りに強大にして、聯邦政府は國內に向て其爲す可き任務を盡さんとするも、毎度各州權力と相容れざる爲め施すによしなきを慨し、將來各州の權力を縮少して之を聯邦政府の掌中に總攬するの必要を鼓吹しつゝあるは、取りも直さず各州固有の主權を侵害するものにして、立國の大趣意に反するものと認めらるゝに至り、從來同氏に謳歌したる民衆も、忽ちにして心氣を一轉したることなる可し。ルーズヴェルト氏に對する人心の反動は自らレパブリカン黨に對する人心の反動を生せざるを得ず。今度の選舉に際し、同氏は自黨の爲めに大に奔走盡力したれども、其結果の意外なりしには思ふに愕然たらざるを得ざりしなる可し。ルーズヴェルト氏が如何に痛快に大敗したりしかを證する爲めに、余は從來同氏の勢力の最も強大にして、且つ前記の新國家主義を標榜して力爭したる紐育州知事の選舉に、同氏が聲援最も努めたるレパブリカン黨の候補者ステイムソン氏が、デモクラツト黨のデイグス氏の爲めに、六萬餘票の多數去る一千九百八年の選舉に、レパブリカン黨の現知事ヒュース氏は約七萬票の多數なりきを以て擊破せられたるのみならず、此競争に

レパブリカン黨はルーズヴェルト氏自身の選挙區に於て尙ほ六十票更に甚だしきは同氏自身のナツソウ郡に於て三百票の敗北を爲したるに加ふるに國會議員の競争にもレパブリカン黨の候補者にして、ルーズヴェルト氏が大統領たりし當時常にスポークスマン其代表者たりし現議員コックス氏が、ルーズヴェルト氏自身故郷郡に於てデモクラット黨のリットン氏の爲めに敗られたるの事實を指摘すれば以て充分なる可しと信ず。

雜 録

シモンド、ド、シスモンヂ
の生涯

高橋 誠一郎

(十三)

大ナポレオンの百日天下は終に亡びた。同盟軍は最後の勝利を得た。佛蘭西は再び王政復古の世と爲つた。けれ共ナポレオンは長く長くシスモンヂの心を征服して居つた。彼が親しく謁見したナポレオンは最早権力と光輝とに人目を眩するのみの人ではなかつた。彼の思想は既に業に成熟の域に達し、其頭腦は漸寂然たる和平の境に入らんとして居つた。聖ヘレナの謫所に響雷の如き終焉の一默を傳ふる時も已に遠くはなかつたのである。一千八百十五年、彼は復もコッペの人と爲つてステール夫人の變らぬ友情に迎えられるが、ジェ

ユーヴ市は同じ温情を以て彼を迎うることをしなかつた。彼の友人等は彼を目して友に背き自黨に叛くものとなした。これ即ち彼が目的の爲めに其手段を見逃さなかつたが爲めである。彼が殊更に外國の干渉を恐れて居つたが爲めである。彼が長く信づることの出来なかつたジャコピン黨と王黨との同盟が彼の胸に深い嫌惡の念を與へたが爲めである。而して彼の心緒が此憎惡の戦鬪に破れたが爲めである。斯くて荒された田園、掠められた都市を見た彼は「予は富める者、吾人の上に此刑答を加へたる者の困苦に對しては自ら慰むることを得可けんも、然も、然も不幸なる小農夫の零落、疾苦、絶望の有様は實に我が心胸を劈くの想あらしむるなり」と叫ぶを禁ずるを得なかつた。彼の朋友であつたラベドイエア及びネー將軍の死や、南方に對する迫害や、王黨の横暴や並に「國民議會の取つた所と飽くまで反對の態度」など事々物々悉く皆彼の思想を憂愁ならしむるの種と爲らぬものはなかつた。而して「あらゆる追懷は彼